

2 野 菜

項 目	作 業 内 容																											
<p>(1) 冬春露地野菜の防寒対策と管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬春露地野菜の防寒対策と管理 ○施設野菜の温度管理 <p>気温の低下にあわせて、軟弱野菜等の露地野菜では、早めにべたがけやトンネル被覆を行い、防寒に努める。なお、被覆資材を利用する場合は、トンネル内の温・湿度管理に留意し、徒長や病害の発生を防ぐ。主なべたがけ資材を表1に示す。</p> <p>表1 主なべたがけ資材の特性</p> <table border="1" data-bbox="421 748 1402 987"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>適品名</th> <th>用途</th> <th>遮光率</th> <th>耐用年数</th> <th>特徴・留意点等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">長繊維不織布</td> <td>パオパオ</td> <td>保温・防霜</td> <td>10~15</td> <td rowspan="2">1~2年</td> <td rowspan="2">安価。通気性が低い。結露、軟弱化に注意。</td> </tr> <tr> <td>パスライト</td> <td>防虫</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>割繊維不織布</td> <td>タフベル</td> <td>保温・防霜 除湿</td> <td>10~15</td> <td>5~7年</td> <td>やや高価。耐候性が高い。</td> </tr> <tr> <td>寒冷紗</td> <td>-</td> <td>保温・防霜 除湿</td> <td>15~90</td> <td>7~10年</td> <td>通気性が高い。いろいろな遮光率の資材がある。</td> </tr> </tbody> </table> <p>冬季はほ場が乾きにくいいため、排水不良のほ場では、外周に溝を掘り排水対策を行うなど、病害発生を防止する。</p> <p>また、生育中のかん水は、ほとんど必要ないが、晴天が続くようであれば、暖かい日の午前10時~午後2時に行う。</p> <p>ア キャベツ</p> <p>生育期間中、肥料切れさせないように窒素成分で3~4kg/10aの追肥を適宜行う。また、結球始めに土壌を乾燥させると小玉になりやすいので、晴天が続くようであればかん水を行う。</p> <p>イ レタス</p> <p>生育適温は15~20℃で、5℃以下ではほとんど生育しない。平均気温が10℃以下になれば、防寒対策としてトンネル被覆を行うが、被覆が遅いと球の肥大が悪くなるので、早めに準備(今月初旬)しておく。なお、被覆後は、トンネル内が高温になると、変形球や充実度の悪い球となるので、30℃以上にならないよう温度管理に注意する。</p>	種類	適品名	用途	遮光率	耐用年数	特徴・留意点等	長繊維不織布	パオパオ	保温・防霜	10~15	1~2年	安価。通気性が低い。結露、軟弱化に注意。	パスライト	防虫	10	割繊維不織布	タフベル	保温・防霜 除湿	10~15	5~7年	やや高価。耐候性が高い。	寒冷紗	-	保温・防霜 除湿	15~90	7~10年	通気性が高い。いろいろな遮光率の資材がある。
種類	適品名	用途	遮光率	耐用年数	特徴・留意点等																							
長繊維不織布	パオパオ	保温・防霜	10~15	1~2年	安価。通気性が低い。結露、軟弱化に注意。																							
	パスライト	防虫	10																									
割繊維不織布	タフベル	保温・防霜 除湿	10~15	5~7年	やや高価。耐候性が高い。																							
寒冷紗	-	保温・防霜 除湿	15~90	7~10年	通気性が高い。いろいろな遮光率の資材がある。																							

項 目	作 業 内 容
	<p>ウ ブロccoli</p> <p>頂花蕾どり専用種と頂花蕾・側花蕾どり兼用種があるが、兼用種では追肥とかん水が重要となる。頂花蕾を収穫した後、10 a 当たり窒素成分で4～5 kgの追肥を施用する。</p> <p>エ たまねぎ</p> <p>浅根性であるが、滞水しやすいほ場では春先に白色疫病やべと病の発生が助長されるので、排水対策は十分に行う。年内に十分根を張らせて、健全な状態で越冬させる。</p> <p>オ そらまめ</p> <p>定植後、1か月余り経過すると、主枝が大きく成長し、分枝の発生が見られてくる。分枝の発生や成長を促すため、主枝の本葉が5～6枚の時に3～4節で摘心するとともに（写真1）、株元に土入れし、株のぐらつきやマルチのバタツキをなくし、株を安定させる。また、年内のモザイク病の発生株は適宜除去する。</p> <div data-bbox="501 1048 1270 1317" data-label="Image"> </div> <p>写真1 そらまめの主枝の摘心（○囲みが摘心部分）</p>
<p>（2）施設野菜の温度管理</p>	<p>越冬型の施設果菜類では、今月から本格的な加温の時期となる。ハウスの隙間や破損部の補修を行い、内張りを張るなどして、保温性を高めるとともに、品目の特性に応じた温度管理により、収量・品質の向上に努める。</p> <p>ア 変温管理</p> <p>トマト、きゅうり（写真2）等の果菜類では、</p> <div data-bbox="810 1503 1318 1883" data-label="Image"> </div> <p>写真2 きゅうりの促成栽培</p>

項 目	作 業 内 容																																																		
	<p>夕方から前夜半（～24 時）は光合成産物の転流を促進するため、やや高めの温度で管理し、後夜半（0～6 時）は呼吸による消耗を抑えるため、低めの温度とする「変温管理」が有効で、燃料の節減にも効果的である。</p> <p>なお、曇りや雨の日は日照が少なく、光合成産物の量も少ないため、前夜半の温度を晴天日よりやや低めに管理する。</p> <p>また、早朝加温は、日の出とともに光合成がスムーズに行える環境を整えるため実施するが、早朝は最も温度の低い時間帯であるため、設定温度を高くすると燃料の消費量は多くなることから、費用対効果等に注意する。</p> <p>イ 品目に応じた温度管理の徹底</p> <p>燃料費の節減を優先して、作物の生育適温以下に設定温度を下げると、草勢の低下や収穫の遅延等によって収量・品質が大きく低下し、経営収支が逆に悪化した事例がみられる。このため、栽培品目に応じた適切な温度管理によって、収量、品質を落とすことのないようにする（表 2）。</p> <p>表 2 品目別変温管理の実施例</p> <p>①トマト (°C)</p> <table border="1" data-bbox="443 1236 1283 1350"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (～24時)</th> <th>後夜半 (0～6時)</th> <th>明け方 (6時～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>温度</td> <td>25～27</td> <td>23～25</td> <td>10～12</td> <td>8～10</td> <td>10～12</td> </tr> </tbody> </table> <p>②きゅうり (°C)</p> <table border="1" data-bbox="443 1435 1283 1592"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (～24時)</th> <th>後夜半 (0～6時)</th> <th>明け方 (6時～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴天温度</td> <td>25～28</td> <td>23～25</td> <td>14～16</td> <td>11～12</td> <td>16～18</td> </tr> <tr> <td>曇天温度</td> <td>20</td> <td>16～17</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>③いちご (°C)</p> <table border="1" data-bbox="443 1675 1283 1877"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (～24時)</th> <th>後夜半 (0～6時)</th> <th>明け方 (6時～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土耕温度</td> <td>25～27</td> <td>20～25</td> <td>8</td> <td>5～6</td> <td>10～12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高設温度</td> <td>25～27</td> <td>20～23</td> <td rowspan="2">8</td> <td rowspan="2">8</td> <td rowspan="2">10～12</td> </tr> <tr> <td>[28]</td> <td>[28]</td> </tr> </tbody> </table> <p>[]は炭酸ガス施用時</p>	時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)	温度	25～27	23～25	10～12	8～10	10～12	時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)	晴天温度	25～28	23～25	14～16	11～12	16～18	曇天温度	20	16～17	13	11	16	時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)	土耕温度	25～27	20～25	8	5～6	10～12	高設温度	25～27	20～23	8	8	10～12	[28]	[28]
時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)																																														
温度	25～27	23～25	10～12	8～10	10～12																																														
時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)																																														
晴天温度	25～28	23～25	14～16	11～12	16～18																																														
曇天温度	20	16～17	13	11	16																																														
時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)																																														
土耕温度	25～27	20～25	8	5～6	10～12																																														
高設温度	25～27	20～23	8	8	10～12																																														
	[28]	[28]																																																	

(作成 農林水産研究所)